

シンガポール留学だより

Duke-NUS Medical School

峯岸 薫

(デューク・シンガポール国立大学)

2018年3月よりシンガポール Duke-NUS Medical School の Titze 研究室に留学を開始しています。私は関節リウマチにおける画像診断や生物学的製剤に関する臨床研究を行ってきましたが、関節リウマチの重篤な合併症である心血管疾患の制御を目指した研究を実施したいと考え、循環器内科の夫と共に夫婦で留学助成を獲得することができ、今回の留学を決意いたしました。

Jens Titze 先生は一貫して生体の電解質・体液調節機構や高血圧を中心とした研究を実施されており、皮膚局所における塩の蓄積が全身の電解質・体液の恒常性維持に関連していることを発見し、循環代謝領域を中心とした研究分野で活躍されています。基礎研究のみならず、組織ナトリウムイオン含有量の測定を可能とする ^{23}Na -MRI の技術を開発して臨床研究も展開し、世界をまたいで新しい概念の検査・治療法の開発につながる研究を推進されています。世界中にコラボレーターがいることも特徴的で、毎週実施されているラボミーティングはとても勉強になり、知識収集、データ解析、結果の解釈方法にも新たな発見がありましたが、プレゼンテーションや議論することの重要性を改めて実感しています。

研究室では、基礎と臨床の両方のプロジェクトが複数進行していますが、私は ^{23}Na -MRI を用いた臨床研究を担当することになり、大学病院や関連施設と連携しながら、シンガポール国立大学所属の画像研究施設で撮影を行っております。英語での研究内容の説明や問診などには日々苦労しておりますが、新規プロジェクトの症例も蓄積し、結果の解析を楽しみにしております。

生後4か月の双子を連れての留学開始となりましたが、子供達も2歳になり、日本語よりも英語・中国語の方が得意のようです。留学先のシンガポールは既婚女性の就労率が高く、保育施設やベビーシッターなどのサービスも整っていますが、就労ビザの給与基準が高く、乳児の保育費用も高額のため、留学助成なくしては家族と一緒にの留学継続は実現できなかったと思います。

最後になりましたが、このような大変貴重なご支援をいただきました上原記念生命科学財団の皆様にご心より感謝申し上げます。また、横浜市立大学医学部の血液・免疫・感染症内科学教室の診療、研究、教育体制のおかげで、臨床を続けながら、出産と子育ても経験し、本格的な研究テーマにも取り組むことができました。この度、海外留学だよりの寄稿という形ではありますが、中島教授ならびにご支援いただいた教室の先生方に心より御礼を申し上げ

ます。2020年4月からは日本での診療に復帰致しますが、現在は日本に ^{23}Na -MRIの技術を初導入するための準備を開始しております。今回の留学先で学んだことを活かし、国際医療に貢献できるような成果をあげられるよう、これからもより一層精進して参りたいと思います。



留学先の Duke-NUS Medical School